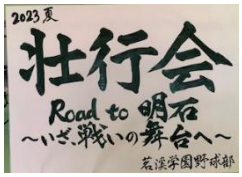
高校野球部全国大会出場　一戦必勝応援記

茗溪学園野球部父母会

兵庫県明石市　明石トーカロ球場　ここで開催される「全国高等学校軟式野球選手権大会」は‘もうひとつの甲子園’と呼ばれ、軟式球児にとって憧れの舞台です。我々父母会も、我が子達がその地に立つことを夢見て日々サポートしています。

【Road to 明石～いざ、戦いの舞台へ～】



野球部の壮行会は父母会が主催するのが伝統です。今年は、このスローガンを託し、43K44K45K 選手達はチーム一丸となって戦いました。そしてついに、県大会連覇、北関東大会 6 年ぶり 3 回目優勝、全国大会出場を果たしたのです。県大会初戦から 39 日間の熱い夏の応援記を綴ります。

応援の力

≪2023 年 7 月 23 日　県大会決勝　美浦村/光と風の丘球場≫

明石への第一関門　北関東大会進出をかけた絶対に負けられない戦いです。三塁側茗溪応援席には、大勢の卒業生・卒業生保護者が連絡を取り合い集結していました。ラグビー部、サッカー部、中学野球部を中心とした生徒応援に合わせ、懐かしい（笑）メガホンを打ち鳴らして下さいました。

「オニの、オニの、オニのタックル！！」「かっ飛ばせー！め・い・け・い！！」

他競技のアンセムでありながら互いに熱唱し応援団はひとつになりました。勝利！！

≪2023 年 8 月 1 日　北関東大会 1 回戦　前橋市/グレースイン前橋市民球場≫

「めいけーい！がくえんーの！選ばーれしー者たちーよ！　勝利をつかもおーぜ～♪♪♪」

早朝出発の応援バスや自力で駆け付けてくれた応援団の大声援が選手を鼓舞しました。勝利！！

卒業生・卒業生保護者のチーム愛

≪2023 年 8 月 2 日　北関東大会決勝　前橋市/グレースイン前橋市民球場≫

この 5 年間　我々の前に高く立ちはだかる壁。チャレンジャーとして臨む北関東王者との決戦です。応援スタンドには、その対決さえ叶わず高 3 の夏が終わっていない 40K、思うように練習が出来ず悔し涙を流した 41K、昨年共に戦い抜いた 42K、更には、卒部以降もずっと後輩を応援し続けてくれる何代も前の野球部員とその保護者の姿がありました。何年の時を経てもチームを思う気持ちに胸が熱くなりました。

9 回表まで 0-0 張り詰めた空気の中　迎えた 9 回裏ワンアウト満塁…
サヨナラ勝利！！
静寂を破る大歓声に茗溪スタンドが揺れました。劇的勝利に呆然と立ち尽くす者、むせび泣く者、抱き合って喜ぶ者　様々な感動に満ち溢れました。6 年ぶりに深緑色の優勝旗を持ち帰ることが出来たのです。

≪2023 年 8 月 19 日　全国大会出場選手壮行会　茗溪学園第二グラウンド≫

茗溪野球部父母会ネットワークの偉大さに圧倒されました。「やりたくてやっているのよ！」「応援させてくれてありがとう！」数多寄せられる激励に、現役選手・父母会一同　驚きと感謝でいっぱいになる一方で、その期待の大きさに身の引き締まる思いでした。改めてこの度の多大なるご支援に感謝申し上げます。

憧れた景色がそこにあった

≪2023 年 8 月 24 日　全国高等学校軟式野球選手権大会　開会式と 1 回戦≫

ビル群の中に存在する球場、神戸線の電車の音、鳥の囀り、開会式のリハーサル…
（これが全国大会か。これが明石だったのか。）
茗溪スタンドには、遠方且つ平日にもかかわらず、引き続き大勢の卒業生・卒業生保護者、他部活動の保護者様、選手の友人などの姿があり、選手の力になったことは間違いなく、感謝してもし切れません。結果は敗退、最後まで勝利を諦めず必死に戦う姿は立派でした。この日を持って 43K（高 3）は引退となりました。

茗溪学園には様々な保護者会（父母会）が存在し、時代と共にその活動の形も変化している（しなければ）と感じています。特に部活動保護者会（父母会）は、野球部のみならず、子供達のサポートが主な活動内容であることから、大変だと感じることも多いかも知れません。しかし今回、子供達の頑張りにより、全国大会という新しい景色を見せてもらえたことは、大変だけど楽しい！感動をありがとう！という気持ちしか湧いてこないのです。
また来年も明石に行く！深紅の大優勝旗を茨城県に持ち帰る！という決意を胸に新チームが始動しました。我々野球部父母会はこれからもサポートし続けます。一戦必勝

44 回生　保護者　髙山佐智子

“ The Victorious Road to AKASHI ”

「野球の応援ってどうやるんですか？ 野球観戦するの、今日が初めてなので。」と言いながら、茨城県大会準決勝の球場に、真っ黒に日焼けした大きな男の子たちが十数人現れました。帽子もかぶらず、ランニングシャツ一枚の子も。

この日の試合は 13 時から。気温は 39℃を越えていました。どやどやと現れて、何だろう…と思っていると、フェンスに張り付き、「おーい！来たぞー！がんばれよー！絶対勝てよー！」と。すると、子どもたちがベンチから一斉に飛び出してきて、フェンスに駆け寄りました。その顔は、毎回試合のたびに応援に来ているわたしたち保護者には見せたことがない、弾けるような笑顔でした。茗溪号(ワゴン車)で、野球の応援に来てくれた寮生ラグビー部軍団でした。

試合が始まると、「オレ、野球の応援の仕方なんて知らないよ！」「何でもいいよ！応援すりゃいいんだよ！」と一人一人の名前を叫び、ルールがわからないと言いながら「打てー！走れー！」とメガホンを叩き続けて、延長 12 回 4 時間にも及ぶ激闘を応援し続けてくれました。

普段は自分に甘く、何が何でも食いついて勝利をもぎ取るというハングリー精神も少なめ…な息子たち。この日は、違っていました。ピンチになっても崩れず、集中力が切れることもありませんでした。拮抗した試合展開でしたが、攻守交代時には笑顔が。そして繰り返される 3 回にも及ぶタイブレークでの執念。ああ、6 年間ともに過ごしてきた仲間の声が、こんなにも力になり、息子たちを変えてしまうものなのだ、と胸が熱くなりました。試合後、肩を叩いて勝利をたたえ、抱き合ったり、談笑したりする子どもたちの姿を、目頭を熱くして眺めていました。

翌日の決勝戦は、歴代の野球部 OB の応援団はもちろんのこと、「明日も応援行くからな！」と言ってくれた寮生ラグビー部に加え、サッカー部、バドミントン部、剣道部、補習で寮に残っていた 6 年生、前日の試合の噂を聞き駆けつけてくれた通学生、そして「用事があって行けないからオレの代わりに行

ってくれと言われたので。」という保護者の方等、誰が誰だかわからない…という応援団に膨れ上がり、用意した応援テントは立錐の余地もなく埋め尽くされました。今までの野球部の試合には見られなかった光景です。"茗溪魂"をもった、あらゆる人たちの集まりになりました。『おまえに、オレのこの思いを声に乗せて届けたい！』が伝わる、思い思いの応援。ラグビー部がリードする応援歌に、野球部の大太鼓がリズムを合わせ、会場の皆が歌う…「♪鬼の鬼の♪鬼のタックル♪かっ飛ばせ～○○～♪ホームランかっ飛ばせ～♪」。奇妙でいて、しかし熱い思いがほとばしる応援が繰り広げられ、決勝戦も勝利することができました。フェンスからは、祝福する仲間達の手が差し出され、選手は駆け寄って喜びを分かち合っていました。手にした深紅の優勝旗は、選手から真っ先に、祝福しようと待ち構えていた先輩たちの手へ。いつもなら選手とその保護者が入って撮る記念写真は、この日、選手と応援団の子どもたち、というその後の北関東大会準決勝・決勝は、群馬県高崎市という遠方にも関わらず、応援団の数は減ることはありませんでした。この大会で優勝し、全国大会出場を勝ち取ろうと、手にできた豆を潰しながらも、連日太鼓を叩いてくれた中学生。共に汗を流し、宿敵作新学院の前に苦渋を味わってきた野球部卒業生の同志。感動の県大会を見て北関東大会も来たくなったという他部活の保護者。多くの人たちの応援を力に変えて、作新学院に雪辱を果たし、北関東大会優勝旗を手にしました。

北関東大会にとどまらず、兵庫県明石市での全国大会へも足を運んでくれた方もいました。後日、全国大会で準決勝、決勝へと勝ち進んだときには、学校を休んで応援に行く計画を、こっそりと立ててくれていた仲間がかなりの数いたと聞きました。

～『応援してくれる仲間』の存在と『応援したいと思わせる仲間』へと成長した子供たち～

全国大会に出場できたことは、感動の思い出の一つとなりました。しかし、それ以上に、息子たちが『よい友、よい仲間』に囲まれて、日々学校生活を送っていたことに強く感動しました。『よい友にとっても、よい友であるようだ』と感じることもできました。多感な時期に、茗溪野球部で、野球を通して、仲間や友と、人生のひとときをともに過ごしてこれたことは、本当に幸せだと思います。この幸せな日々は、数十年後、息子たちの心を力強く支えてくれていることと確信しています。この先、辛く厳しい状況になったとき、きっと心の支えになると思います。

なんて、なんて素晴らしい夏だったのだろう…。親として、子供たちへの感謝と、子供たちからもらった幸せなひとと き、言葉に表さずにはいられません。

43 回生 保護者　阿部典世